

Date

県内経済 〈4月〉

概況

県内経済は、全体として回復の動きが足踏みしている

電子部品、木材の生産は前年を上回ったものの、機械金属は低迷が続いている。建設は、公共工事、住宅着工ともに前年を下回った。個人消費は回復の兆しがみられる。雇用情勢は弱い動きとなっている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、車載向けで伸び悩んでいるものの、スマートフォン向けなどで回復傾向にあることから、3か月ぶりに前年を上回った。機械金属の生産額は、ウエイトの高い輸送機械で国内向けは回復傾向にあるが、海外向けの落ち込みにより、14か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（3月）が4か月連続で前年を上回ったほか、製材品も15か月連続で前年を上回った。公共工事請負額は、6か月連続で前年を下回った。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事、民間工事とも振るわず、2か月ぶり

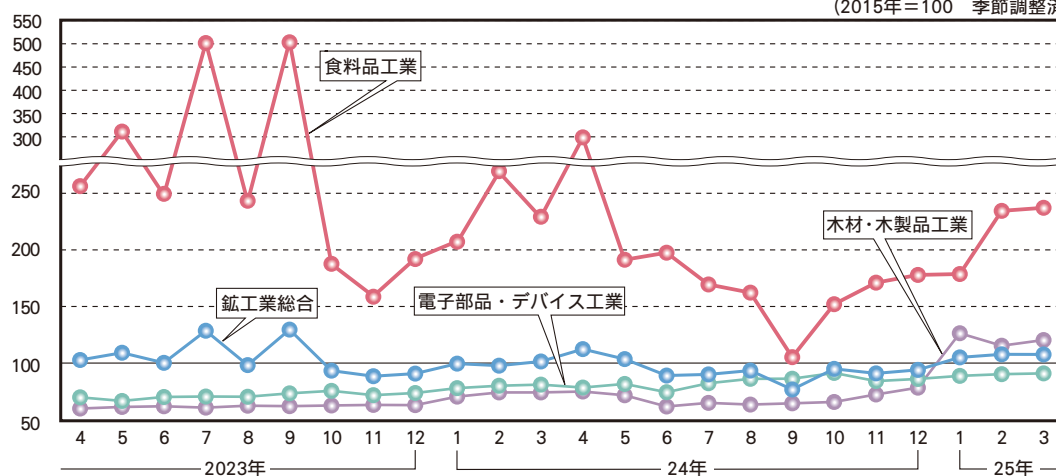
に前年を下回った。住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅いずれも減少し、4か月ぶりに前年を下回った。個人消費は、小売店販売額（3月）が2か月ぶりに前年を上回ったほか、新車乗用車販売台数も4か月連続で前年を上回るなど、回復の兆しがみられる。

有効求人倍率は前月比0.02ポイント低下の1.23倍となった。新規求人数は前年比3.3%減と9か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比1.3%減と5か月ぶりに前年を下回った。

企業倒産件数は8件、負債総額は12億7,000万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」



電子部品

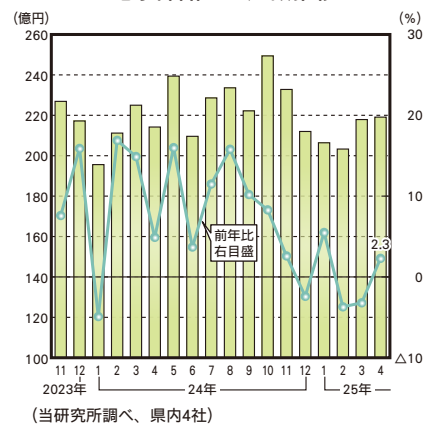
生産額、3か月ぶりに前年比増加

4月の生産額は前年比2.3%増となり、3か月ぶりに前年実績を上回った

車載向けは電気自動車（EV）市場の伸び悩みにより停滞気味であるものの、スマートフォン向けが回復傾向にあり、その他民生機器向けや産業機械向けも好調が続いていることから、総体では持ち直してきている。

その他品目別では、液晶パネルは増勢が続いているものの、半導体素子は減少に歯止めがかかっていない。不振が続いていた主力のセラミックコンデンサやコイルは回復傾向となっている。

電子部品の生産額推移



機械金属

生産額、減少止まらず

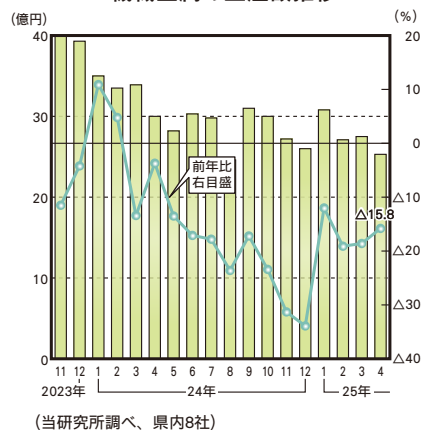
4月の生産額は前年比15.8%減となり、14か月連続で前年実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械は、国内向けは回復傾向にあるものの、海外向けは中国での価格競争激化に加え、欧州での販売不振などから落ち込んでおり、総体では減少が続いている。

その他民需関連では、長らく減少が続いていた産業機械は底打ち感がみられ、建機部品も回復の兆しがみられる。金型は一進一退の動きとなっている。

公共工事関連では、橋梁・鉄骨は持ち直してきているものの、水道部品は低迷が続いている。

機械金属の生産額推移



木材業

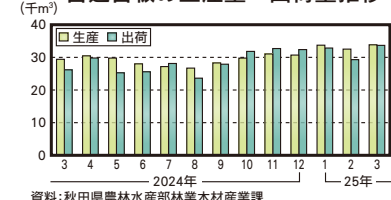
普通合板が4か月連続で前年比増加

新設住宅着工が中期的に低迷傾向にあることから、全国的には基調として木材・木製品の生産・出荷量の伸び悩みが続いているが、本県では県内大手の増産と県北の大型製材工場稼働により、製材の供給増が続いている。

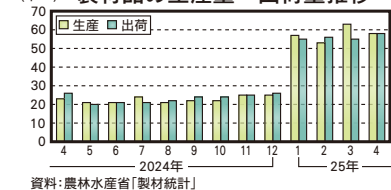
3月の普通合板は、新設住宅着工（3月・全国）が前年比大幅増となったこと等により、生産量は前年比15.1%増、出荷量も同28.6%増といずれも4か月連続で前年を上回った。

4月の製材品は、農林水産省の調査対象サンプルに変更（追加）があった影響等から、生産量が前年比152.2%増、出荷量も同123.1%増と、ともに15か月連続で前年を上回った。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移

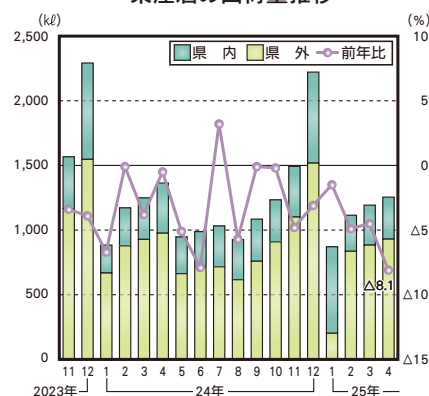


酒造業

出荷量、前年比減少幅が拡大

4月の清酒出荷量は、前年比8.1%減と9か月連続で前年を下回った。物価上昇による節約志向が高まり、前年比減少幅は前月に比べ拡大した。出荷先別では、県内向けは同16.4%減、県外向けも同4.8%減と、ともに前年を下回った。県外の主な出荷先別では、北海道は同12.6%増、その他も同2.6%増となったものの、東京は同15.1%減、東北5県も同2.3%減となった。種類別では、普通酒は同16.4%減となったが、特定名称酒は同1.2%増と前年を上回った。特定名称酒の内訳では、吟醸酒は同1.8%減、本醸造酒は同11.4%減となった一方で、純米酒が同9.2%増と前年を上回った。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 国、独立行政法人が減少し前年を下回る

4月の公共工事請負金額は、県、市町村が前年比増加したものの、国、独立行政法人等が減少し、総体では前年比1.1%減と6か月連続で前年を下回った。

一方、当研究所調査による地元大手12社の4月の新規受注額は、前年比45.2%減の883百万円と2か月ぶりに前年を下回った。

うち官公庁工事は、自動車専用道路にかかる維持補修の大口工事があったものの同35.3%減にとどまり、民間工事は、大口工事の受注がなかったため同64.5%減と前年実績を大幅に下回った。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	件数	前年比	請負金額	前年比
4月	301	0.0	36,522	△1.1

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	4月	前年比	1～4月	前年同期比
官公庁	690	△35.3	7,651	△14.7
民間	193	△64.5	5,296	23.0
合計	883	△45.2	12,947	△2.4

(当研究所調べ、県内12社)

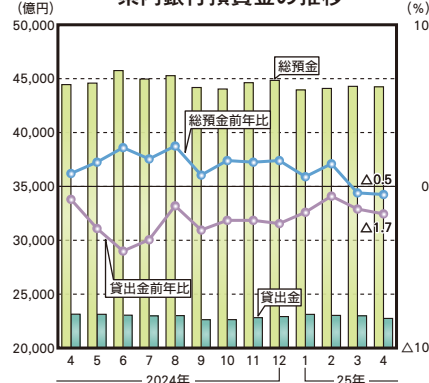
金融

預金、貸出金とも前年比減少幅が拡大

4月末の県内銀行の預金は、前月末比44億円減少し、前年比でも0.5%の減少となった。貸出金は、前月末比242億円減少し、前年比でも1.7%の減少となった。預金は前月に続いて、貸出金は21か月連続で前年を下回り、いずれの減少幅も前月に比べて拡大した。

4月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は8件(前年比4件増)、負債総額は12億7,000万円(同1,487.5%増)となった。倒産件数および負債総額は、4月単月では過去10年で最多となり、前月と比べても増加した。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会



住宅着工

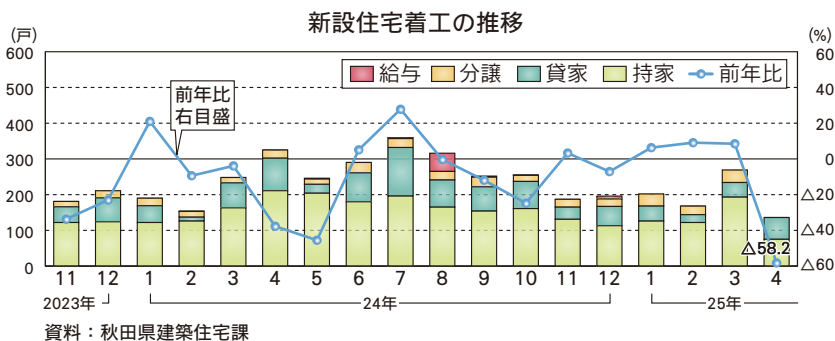
着工戸数、駆け込み需要の反動により大幅減

4月の県内新設住宅着工戸数は、136戸（前年比189戸減、58.2%減）と、4か月ぶりに前年を下回った。2025年4月に建築物省エネ法改正を控え、前月に駆け込み需要が生じた反動から、大幅減となった。

利用関係別では、持家が75戸（前年比136戸減）、貸家が61戸（同30戸減）、分譲住宅が0戸（同23戸減）、給与住宅が0戸（同横這い）となった。

持家は2か月ぶりに前年を下回った。貸家は、秋田市と北秋田地域で増加し、鹿角地域では横這いとなったが、他の6地域で減少したため、2か月連続で前年を下回った。分譲住宅は着工がなく、8か月ぶりに前年を下回った。

地域別では、県北・県央・県南の全地域で、持家、貸家、分譲住宅の着工が減少し、前年を下回った。



住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2025年4月	前年比	25年1～4月	前年比
県北	18	△60.9	148	△24.5
県央	85	△56.0	438	△14.8
県南	33	△61.6	189	△8.7
合計	136	△58.2	775	△15.5

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

回復の兆しがみられる

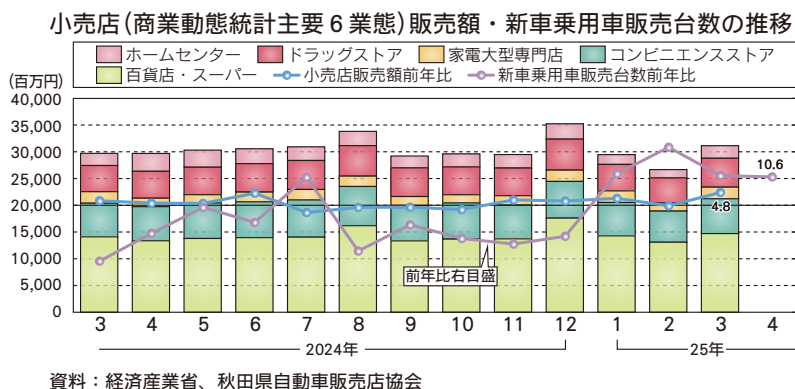
3月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比4.8%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。

内訳をみると、ドラッグストア（前年比10.4%増）、百貨店・スーパー（同4.4%増）、コンビニエンスストア（同3.5%増）、ホームセンター（同3.0%増）、家電大型専門店（同0.6%増）とすべての業態で前年を上

回った。

4月の新車乗用車販売台数は、認証不正問題で停止していた車種の生産再開による反動増などにより、前年比10.6%増と4か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、登録車が同0.7%増と4か月連続で前年を上回ったほか、軽乗用車も同26.5%増と4か月連続で前年を上回った。



4月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,179	10.6
登録車	1,219	0.7
普通車	661	△12.5
小型車	511	22.0
輸入車	47	27.0
軽乗用車	960	26.5

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）(単位：%)

区分	2025年1月	2月	3月
①消費者物価指数	4.1	3.8	3.3
②勤労者名目賃金	1.0	0.3	7.7

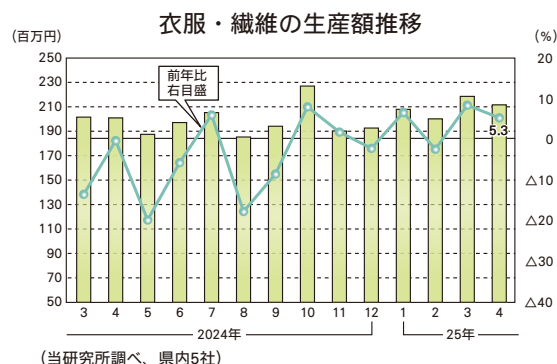
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、2か月連続で前年比増加

4月の生産額は、前年比5.3%増となった。EC向け婦人服が好調に推移し、2か月連続で前年を上回った。

受注は、春物が前月に集中した影響から、3か月ぶりに前年を下回った。また、最低賃金等の人件費や燃料費の増加により収益は減少傾向にある。



雇用

弱い動き

4月の有効求人倍率(季調値)は、前月比0.02ポイント低下の1.23倍となった。常用の内訳では、一般は同0.04ポイント低下の1.31倍、パートは同0.16ポイント低下の0.74倍となった。

新規求人数は前年比3.3%減となり、9か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同10.7%減となった。「繊維」で増加したものの、「電子部品・デバイス・電子回路」で採用計画の見直しなどにより減少したほか、「電気機械器具」などでも減少した。非製造業は同2.4%減となった。「建設」で慢性的な人手不足や従業員の高

齢化などにより増加したものの、「卸売、小売」で物価高騰等による来客数減少の影響により減少したほか、「宿泊、飲食サービス」などでも減少した。

新規求職者数は前年比2.0%増となり、4か月ぶりに前年を上回った。

事業主都合離職者数は前年比1.3%減となり、5か月ぶりに前年を下回った。

地域別雇用状況(パートを含む常用)をみると、新規求人数は県央で増加したものの、県北、県南で減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.16倍、県央が1.13倍、県南が0.91倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数(全数)

(単位:人、%)

区 分	2025年3月	前年比	4月	前年比
新規求人計	7,521	△2.0	7,466	△3.3
製造業	787	0.4	762	△10.7
食料品	97	△46.1	119	0.0
繊維	125	12.6	110	2.8
木材・木製品	47	△13.0	23	△36.1
金属製品	81	△1.2	62	△16.2
電子部品・デバイス・電子回路	93	63.2	97	△17.1
電気機械器具	43	43.3	55	△3.5
非製造業	6,734	△2.3	6,704	△2.4
建設	1,179	2.3	1,001	12.6
運輸、郵便	281	△9.9	376	22.9
卸売、小売	846	△16.4	978	△12.4
宿泊、飲食サービス	510	△15.6	542	△31.9
生活関連サービス、娯楽	197	△18.3	290	20.3
教育、学習支援	228	34.9	107	△31.4
医療、福祉	1,615	4.8	1,730	17.1
サービス	1,050	11.1	977	△10.7
新規求職者数	4,088	△0.3	5,286	2.0
有効求職者数	16,856	△2.9	17,363	0.9

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位:倍、人、%)

区 分	2025年1月	2月	3月	4月
有効求人倍率	1.45	1.38	1.35	1.31
パートタイム	0.89	0.94	0.90	0.74
全数(季調値)	1.24	1.23	1.25	1.23
事業主都合離職者数	245	280	204	383
前年比	1.7	104.4	39.7	△1.3

4月の地域別雇用状況(パートを含む常用)

(単位:人、%、倍、ポイント)

区 分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比		前月比	
県北	1,565	△13.9	1.16	△0.12
県央	3,949	3.6	1.13	△0.12
県南	1,486	△0.3	0.91	△0.05
合計	7,000	△1.7	1.07	△0.10

(注) 臨時・季節を除く